

「高齢期の生活空間」に関する調査

約8割が「高齢期には、生活環境のダウンサイジングが必要」

「環境変化への恐れ」「転居の大変さ」「断捨離の難しさ」がハードルになり、住み替え進まず

高齢期のライフスタイルの充実に関する研究・提言を行っております、NPO 法人「老いの工学研究所」（大阪市中央区）は、このたび、高齢期の生活空間に関するアンケート調査を実施し、40歳から92歳まで403名の回答を得ました。その結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

1. 約8割が「高齢期には、生活空間のダウンサイジングが必要」

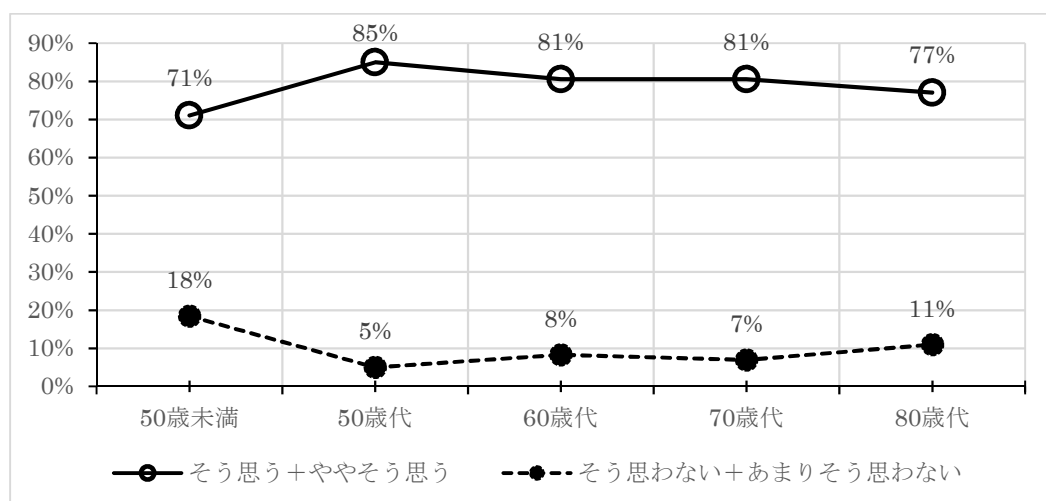
『高齢期には、小さな家に住み替えるなど、生活空間のダウンサイジングが必要だと思いますか？』という質問に対して、「そう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5つから一つを選択していただきました。回答は、以下の通りとなりました。

<高齢期には、生活環境のダウンサイジングが必要か>

	男性	女性
そう思う	51%	58%
ややそう思う	24%	24%
どちらとも言えない	14%	10%
あまりそう思わない	5%	2%
そう思わない	6%	5%

男性	女性
75%	82%

男性	女性
11%	7%



高齢期に生活環境のダウンサイジングが必要と考える人が、約8割となりました。通勤や子育てがなくなって生活範囲が狭くなること、身体的状況の変化などで広い家の維持・管理が大変になることなどで、高齢期は生活空間を小さくした方が暮らしやすいという認識は、男女や世代を問わず、おおむね共通していることが分かります。

2. 住み替えが進まない理由

日本は欧米諸国に比べ、高齢期に住み替える人がとても少ない国と言われています。その理由について質問を行った結果は、以下のようになりました。(複数回答可)

<日本で、高齢期の住み替えが少ない理由>

住み慣れた家から離れることに、恐れがあるから。	70%
年をとって、引っ越しを大変だ、面倒だと思う人が多いから。	63%
経済的な理由(家の確保などで新たな費用が発生するなど)	57%
新しい家や環境になじめるかどうか、恐れがあるから。	41%
家や環境に不安があっても、我慢して暮らす人が多いから。	30%
家や家具などに、思い出がつまっておき、愛着が強いから。	29%
子供や親族が反対するケースが多いから。	5%

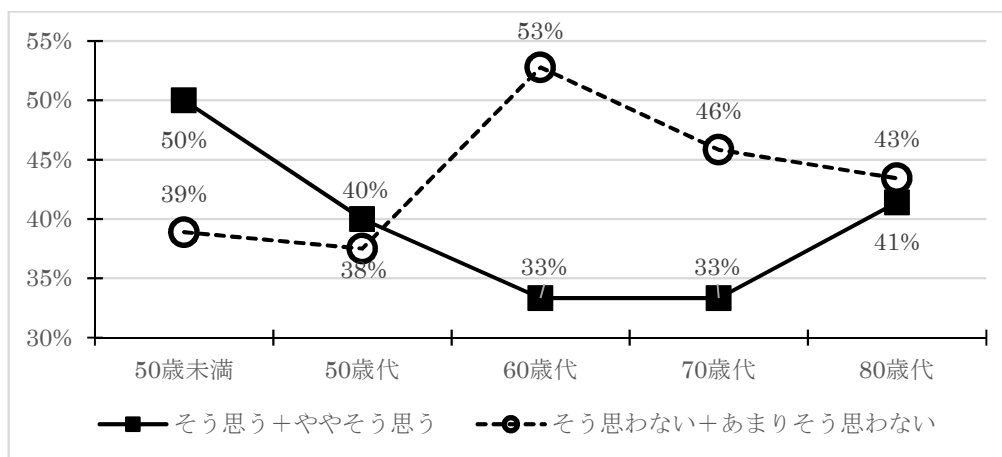
3. 「断捨離が苦手」は、男女ともに半数近く。

「あなたは、断捨離が得意だと思いますか?」という質問を行いました。全体では男女ともに、断捨離を苦手とする人が半数近くになっています。年代別では、60歳代・70歳代で断捨離を得意とする人の割合が約3割と、最も低くなりました。

	男性	女性
そう思う	15%	14%
ややそう思う	21%	25%
どちらとも言えない	20%	15%
あまりそう思わない	22%	23%
そう思わない	22%	23%

	男性	女性
	36%	39%

	男性	女性
	44%	46%



今回の調査から、「高齢期には生活空間を狭くする方が良い」という共通認識の存在が分ります。一方、「環境変化への恐れ」「転居の大変さや面倒」「断捨離の難しさ」等から、住み替えが進んでいない現状が伺えます。長い高齢期の充実が課題となっている今、高齢者あるいは高齢期を前にした次世代には、生活空間のダウンサイジングを進めるための意識改革が求められているようです。

【調査概要】

- ・調査期間：2019年1月25日～3月10日
- ・調査方法：郵送、インターネット
- ・回答者403名(男性：182名、女性：221名)
- 40歳代48名、50歳代40名、60歳代72名、70歳代142名、80歳以上101名

<お問い合わせ先>
 NPO法人「老いの工学研究所」
 大阪府中央区伏見町4-2-14
 理事長 川口 雅裕
info@oikohken.or.jp / 06-6223-0001